

## ○一般社団法人 日本森林学会 2020 年度第 1 回（通算第 472 回）理事会 議事録

日時：2020 年（令和 2 年）4 月 23 日（月）13:00～16:00

場所：Web 会議システム（Adobe Connect）を用いて開催

開催者：黒田慶子

出席者：会長）黒田慶子，副会長）田中 浩，小島克己，理事）玉井幸治，柿澤宏昭，竹中千里，正木 隆，伊藤 哲，松本麻子，福田健二，大住克博，井鷲裕司，高山範理，佐藤宣子，大久保達弘，船田 良，中村太士，梶本卓也，横井秀一，監事）堀 靖人，主事）南光一樹，岩永青史，滝 久智，吉藤奈津子，長倉淳子，坂下 渉，荒木眞岳，永野聡一郎，竹内啓恵，當山啓介，今村直広，東原貴志，編集部）町田庸子 [学会誌刊行センター]，事務局）稲村崇子，オブザーバー）近重朋晃 [全林試協]，土屋俊幸 [第132回大会運営委員長]

議長：黒田慶子

Web 会議システム（Adobe Connect）を使用することを宣言し，出席者全員が問題なく参加できており，出席者が適時的確な意見表明が互いにできることを確認し，議案の審議に入った。

### 審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下のとおりである。

#### 1. 2019 年度事業報告（案）

玉井理事（総務担当）から提案され，2020 年定時総会の承認を求めることとなった。

#### 2. 次回理事会，定時総会，総会時のシンポジウムの持ち方

玉井理事（総務担当）から，新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い，2020 年 5 月 27 日の理事会と定時総会を Web 会議での開催とし，公開シンポジウムを中止とすることが提案された。役員全員及び代議員全員に Web 会議での開催や決議・採決の方法について承諾を得ること，会員の総会傍聴方法の検討が議論された。提案のとおり承認された。

#### 3. 第 132 回大会での大会参加費

玉井理事（総務担当）から，近年の大会運営における収支の不均衡を踏まえて，第 132 回大会の参加費を一般会員は前納 8,000 円，当日 9,000 円（第 131 回大会より 2,000 円値上げ）とし学生会員は前納 3,000 円，当日 4,000 円（第 131 回大会と同じ）とすること，懇親会費を一般会員は前納 9,000 円，当日 10,000 円とし学生会員は前納 5,000 円，当日 6,000 円とすることが提案された。提案のとおり承認された。

#### 4. 第 134 回大会の開催地区の決定

玉井理事（総務担当）から，学会運営規則第 4 条の 3 に基づき，第 442 回理事会および 2013 年定時総会で定めたとおり，第 134 回大会の開催機関の推薦を応用森林学会に依頼することが改めて提案された。提案のとおり承認された。

#### 5. 第 135 回大会の開催地区の決定

玉井理事（総務担当）から、第 135 回大会以降の開催地区について更に検討する必要があるため、2020 年定時総会では第 135 回大会の開催地区のみを定め、その地区を関東地区とすることが提案された。第 131 回大会（名古屋大学）が中止されたため、中部地区での開催を早めにする要望が議論された。第 135 回大会の開催地区は関東地区とするが、中部地区の可能性もあることが承認された。

## 6. 日本森林学会会員規則の改正

玉井理事（総務担当）から、学生会員が一般会員になる場合の会員種別変更日と年会費の差額の納入についてわかりやすくする改正が提案された。提案のとおり承認された。

## 7. 定款・規則集・内規集の改訂

玉井理事（総務担当）から、現在の定款・規則集・内規集を doc ファイルから docx ファイルに変換すること、定款・規則集・内規集間の体裁のゆらぎや表記ゆれの修正、条文の書き方の統一、数字の半角化、西暦表記の追加、フォントの変更を行うことが提案された。提案のとおり今後改訂を行うことが承認された。

## 8. 2019 年度（令和元年度）決算

柿澤理事（会計担当）から提案があり、提案の通り承認され、2020 年定時総会の承認を求めることになった。本部事業は 2,599,889 円の赤字、大会事業は 7,887 円の赤字、学会全体では約 261 万円の赤字であること、本部事業の赤字について個人会費収入の減少（予算より約 62 万円少なかった）と想定以上の日林誌の印刷頁数（会誌等刊行費支出が予算よりも約 132 万円多かった）が主たる要因であったこと、大会事業の赤字分を指定正味財産（大会開催引当資産）から取り崩したこと、大会事業の赤字分のうち余計に補てんした 509 円（残高証明発行手数料と利息の各 1 回分）を次年度に指定正味財産に戻すことが説明された。

## 9. 2020 年度（令和 2 年度）予算の修正

柿澤理事（会計担当）から、2019 年度第 5 回メール理事会で承認済みの 2019 年度予算について、半期決算を期末決算に変更すること、2019 年度決算をもとに「会誌等刊行費支出」を増額することが提案された。提案の通り承認された。

## 10. 赤字決算に対する今後の検討の方向性

柿澤理事（会計担当）から、近年の収支について、長期的には収入が減少傾向で支出が増大傾向にあり赤字が増大する構造になっていること、会費収入が漸減傾向にある一方、管理費が会議費を中心として増加傾向にあること、日林誌の印刷製本費が頁数によって増減し、別刷収入が減少傾向にあり頁数増加にリンクしなくなっていることが説明され、赤字対応の検討について議論した。財政健全化委員会を作るなどして、会費の値上げや会員増の方策、事業の見直しなどを検討すること、学会誌とその出版方法の在り方を見直す時期に来ていること、Web 会議の活用による支出減などが議論され、次期役員にこれらを引き継ぐことが提案された。

## 11. 日本森林学会誌論文賞審査・選考内規の改正（案）

正木理事（日林誌編集担当）から、日林誌論文賞の選考の公平さを保つために、候補論文ごとの評価委員数を2名から3名に増員し、評価委員による評価結果のうち候補論文ごとに上位2名の評点を用いることとすることが提案され、提案のとおり承認された。

また、この内規を実際に運用するのは日林誌論文賞選考委員会であることから、内規を変更する際の主体を表彰委員会から日林誌論文賞選考委員会に改めることが提案された。日林誌論文賞は学会全体の表彰事業を構成する一つの要素であり表彰に関する業務は表彰担当が所管したほうがよい、一方で実務は選考委員会が担うことから選考委員会を主体とするほうがよいという意見が交わされた。このことはJFR論文賞や学生ポスター賞の選考内規とも整合性を取る必要があるため、本提案については検討し直すこととなった。

## 12. JFRにおける短報頁数制限変更のための Instructions for authors の改定

伊藤理事（JFR編集担当）から、短報の頁数制限を「規定4頁、超過頁代（超過1頁あたりJPY30,000）を含めた総頁の最長を6頁」から「規定6頁、超過頁代（超過1頁あたりJPY30,000）を含めた総頁の最長を8頁」に変更することが提案された。頁数制限のために取り下げられる原稿を回避するのが目的である。提案のとおり承認された。

## 13. 全国林業試験研究機関協議会主催のセミナーに対する後援と講師派遣の依頼

大住理事及び荒木主事（企画・社会連携担当）及び近重朋晃氏（全林試協）から、全国林業試験研究機関協議会が森林・林業関係研究員を対象に実験計画法・統計解析の基礎及び学技術論文の書き方・図表の作成法についてのセミナーを主催するにあたり、日本森林学会に対してセミナーの後援と講師派遣の要請があることが説明された。講師として推薦したい人が森林学会員でない可能性があること、受講者が初心者か中堅かを明確にすること、Web会議システムによる開催、撮影してビデオライブラリとして蓄積していくことが議論された。提案のとおり承認された。

## 14. ダイバーシティ推進委員会の常置委員会化

高山理事（ダイバーシティ推進担当）から、学会におけるダイバーシティ推進活動を今後さらに本格化し継続的に取り組んでいくために、ダイバーシティ推進委員会を臨時委員会から常置委員会へ変更すること、そのためのダイバーシティ推進委員会内規（案）が提案された。内規案の文言の修正が議論された。提案のとおり承認され、今後定款の改正案の承認を経て2020年定時総会での承認を求めることとなった。

## 15. 2019年度林業遺産の承認

佐藤理事（林業遺産選定担当）から、2019年11月末日の締切りまでに、2019年度林業遺産候補として6件（新規応募5件、継続審査1件）の応募推薦があり、一部は追加資料の提出を求めるなど、林業遺産選定委員会による審査の経過が報告された。新たな林業遺産として6件が提案され、提案の通り承認された。認定されたものは、「湯野風穴種子貯蔵施設遺構」、「大日本山林会林業文献センターと収集資料群」、「平蔵沢ヒバ人工林施業展示林」、「米沢市の山との暮らしを伝える遺産群：草本塔群と木流し」、「再度山の植林と関連資料」、「大型木製水車駆動帯鋸製材装置一式」である。

## 16. 「防災」から「防災・水文」への部門名称変更およびプログラム編成委員会内規の改正

梶本理事（プログラム編成担当）から、「防災」部門での発表内容が必ずしも直接的に防災に関係しないことがあり、当該部門での発表者に対するアンケートを踏まえて部門名称を変更することが提案された。提案のとおり承認された。またこれに伴いプログラム編成委員会内規の改正（部門名称の変更）が提案され承認された。

## 17. 前回までの議事録

2019 年度第 4 回（通算第 471 回）理事会，2019 年度メール理事会（第 5 回から第 8 回まで），2020 年度第 1 回メール理事会の議事録が承認された。

### 報告事項：

#### 1. 総務担当からの報告

玉井理事より，第 133 回大会（東北地区）について開催機関を山形大学，開催場所を山形市として開催可能かどうか検討中であること，2019 年度事業報告について監事監査を受けたこと，2020 年度日本農学会シンポジウム「水と農学（仮題）」に当学会から徳地直子会員（京都大学）が「森里海を繋ぐ森林からの流出水」と題して講演すること，3 件の共催・後援・協賛依頼の承認，会員動向について報告された。

#### 2. 会計担当からの報告

柿澤理事より，2019 年度決算について監事監査を受けたことについて報告された。

#### 3. 日林誌編集担当からの報告

正木理事より，投稿審査状況，Editorial Manager を用いた現在のシステムを反映した日本森林学会誌編集方針の改定，2020 年 6 月以降の日林誌編集委員会の体制について報告された。編集方針の文言の一部修正が提案された。

#### 4. JFR 編集担当からの報告

伊藤理事より，編集委員について常任編集委員 61 名（うち海外編集委員 8 名）であり，2019 年 4 月に常任編集委員 15 名が退任し 15 名が新たに着任，海外編集委員 1 名が退任となったこと，発行状況，最近はアクセプト論文数を十分確保できずオンライン発行が予定月末ぎりぎり，冊子体の発行が予定月より遅れることがあること，2019 年の投稿件数は増加傾向の 248 件（2018 年 205 件，2017 年 182 件），アクセプト率はやや高めの 26%（2017 年 23%，2018 年 23%），IF は速報値で 1.093（2017 年 0.908，2018 年 0.777）であったこと，特集号「Long-term monitoring and research in Asian university forests: towards further understanding of environmental changes and ecosystem responses」は 2020 年 4 月号と 6 月号に分けて掲載されること，特集号「Recent advances in symbiotic associations between Frankia and actinorhizal plants」と「Ecological management of insular forests: conservation of endangered species and native ecosystems in Ryukyu Archipelago」は 2021 年掲載予定だが，1 件目は関連学会の延期により掲載時期が変更になる可能性があること，著者による Suggested Reviewer の提示が制限付きで可能になったこと，Invited Review の掲載を

進めること、T&FのプロモーションにおいてJFR購読を宣伝できそうな国際会議等の情報の収集と国際森林デーにあわせて過去にJFRに掲載された論文の中から今年のテーマである「Forests and Biodiversity」に関連する論文10本をまとめたspecial collectionのウェブページを作成したこと、オンライン出版及びオープンアクセス化にかかる見積もりが報告された。

#### 5. 森林科学担当からの報告

松本理事より、編集委員の交代（退任7名、新任7名）、主事の交代、今年度中に表紙デザイン（2005年2月より使用）をリニューアルし誌面をフルカラー化すること、「森林科学」の発行について、88号（2020年2月）は特集「雪とたたかう森林」として発行済み、89号（2020年6月）は特集「バラ科樹木の脅威 クビアカツヤカミキリ」として準備中であることが報告された。

#### 6. 広報担当からの報告

福田理事より、メールマガジンの発行状況、jfs-mailのアドレスリストの更新、ウェブサイトの更新記録について報告された。Web作業に用いているソフトウェアをMovable Type 7 r.4605にバージョンアップしたこと、情報暗号化の ProtokolであるSSL（Secure Sockets Layer）について、年に1回の更新作業をネットプロ社に依頼したことが報告された。

#### 7. 企画・社会連携担当からの報告

大住理事より、第131回大会で予定されていた3件の学会企画の中止について報告された。

#### 8. 表彰担当からの報告

井鷲理事より、第131回日本森林学会大会の授賞式及び受賞者講演は開催せず受賞者に賞状等を直接送付したこと、学生ポスター賞の審査・選考を中止したこと、今後1年間に予定されている主な学術賞のリスト、日本学術振興会賞について会員からの応募がなかったことが報告された。森林分野からの振興会賞や育志賞の応募がもっと積極的であるべきだという意見が出た。

#### 9. ダイバーシティ推進担当からの報告

高山理事より、第131回日本森林学会におけるダイバーシティ推進セッションの開催が中止になったこと、第130回日本森林学会大会で開催した学会企画「ダイバーシティ推進ランション Workshop 2019」の報告が森林科学89号（2020年6月発刊予定）に掲載予定であること、第18期男女共同参画学協会連絡会第2回運営委員会が2020年5月9日に延期となりWeb会議（Zoom）での開催となったこと、第18期男女共同参画学協会連絡会に2020年度分担金；15,000円を支払ったことが報告された。

#### 10. 林業遺産選定担当からの報告

佐藤理事より、2019年度の選定結果のプレスリリースを総会に合わせて2020年5月27日（水）に行うこと、また2020年度林業遺産選定のスケジュールなどについて報告された。

#### 11. JABEE 担当からの報告

大久保理事より、JABEEが2020年度認定・審査の時期を遅らせるとともに審査期間を延長することについて報告された。

## 12. 木材学会連携担当からの報告

船田理事より、第70回木材学会大会（鳥取大会・2020年開催）の中止、第132回森林学会大会との合同大会となる第71回木材学会大会（東京農工大学・2021年開催）の準備状況、木材学会誌の投稿料のとり方について報告された。今後の大会を、連携学会も含めて、開催判断、開催形態について模索することについて意見が交わされた。

## 13. 国際交流担当からの報告

田中理事より、今年度から予定していた韓国及び中国の森林学会との相互の学会参加による交流については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止となったことが報告された。次年度以降、すでに両国研究者と交流のある会員を通じて情報を交換し、実質的な形を作っていくことが必要であることが説明された。

## 14. プログラム編成担当からの報告

梶本理事より、第132回大会にむけたプログラム編成委員会委員の交代と選任が報告された。

## 15. 中等教育連携推進担当からの報告

横井理事及び東原主事より、第131回大会における第7回高校生ポスター発表をポスター原稿にて審査したことが報告された。発表件数は44件（参加高校34校・1グループ、1～2件/校）、最優秀賞2件、優秀賞3件、特別賞3件を表彰したことが報告された。また、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成によりポスター集の印刷を行ったこと、大日本山林会の支援により、受賞校記念の楯、参加記念品や書籍を贈呈したことが報告された。

議事録作成者：玉井幸治，南光一樹